

期末レポート

「外国直接投資の決定要因」

学籍番号：

氏名：

2024-01-11

1. はじめに

本研究の目的は、外国直接投資（FDI）のストックとその他の変数の関係を明らかにすることである。既存研究としては、Anderson et al. (2019) や Kox and Rojas-Romagosa (2020) が、FDI の重力方程式の推定を行っている。Blonigen (2005) は、～～こういうことを論じている。また、Blonigen (2005) は、～～こういうことも明らかにしている。

注：黄色いマーカーの部分は教員の説明ですので、提出時に削除して、自分独自の文章にしてください。それ以外の部分は自分のレポートの一部として字数に加えて良いです。

<自分で先行研究を Google Scholar (<https://scholar.google.co.jp/>) で調べて、先行研究がどうしているのか要約し、自分の研究との違いを論じて、ここに加筆してください>

2. データの概要

本研究で用いるデータは、国際通貨基金（IMF）の Coordinated Direct Investment Survey (CDIS) から得た、FDI ストックのデータである。データには、2 国間の 2018 年の FDI ストック（レベルと対数値）のほかに、投資国の国コード、国名が含まれている。また、Head et al. (2010) が構築した CEPII の Gravity database から言語が同じなら 1 をとる共通言語ダミー、距離の対数値、国境を接する国同士であれば 1 をとるダミー変数をデータに加えている。さらに、Penn World Table から、GDP と一人当たり GDP の対数値をデータに加えた。

表 1 変数と説明

変数	説明	出所
countrycode	投資元国の国コード	IMF, Coordinated Direct Investment Survey
countrycode_partner	投資相手国の国コード	IMF, Coordinated Direct Investment Survey
year	年次	IMF, Coordinated Direct Investment Survey
FDIstock	FDIストック	IMF, Coordinated Direct Investment Survey
countryname	投資元国の国名	IMF, Coordinated Direct Investment Survey
countryname_partner	投資相手国の国名	IMF, Coordinated Direct Investment Survey
lnFDIstock	FDIストックの対数値	IMF, Coordinated Direct Investment Survey
oecd	OECD加盟国であれば1をとるダミー変数	
contig	国境を接する国同士であれば1をとるダミー変数	CEPII, Gravity database
comlang_off	言語が共通である国同士であれば1をとるダミー変数	CEPII, Gravity database
lnpercapGDP	投資元国の一人当たりGDP	Penn World Table
lnGDP	投資元国のGDP	Penn World Table
lnpercapGDP_partner	投資相手国の一人当たりGDP	Penn World Table
lnGDP_partner	投資相手国のGDP	Penn World Table
lnDist	距離の対数値	CEPII, Gravity database
id	ID	

<自分で Excel により平均値、標準偏差など記述統計を計算し、ここに加筆してください>

3. 分析結果

下の散布図から明らかなように、～という傾向が見られる。

<自分で Excel により散布図を 1 つ以上作成し、ここに文章を加筆してください>

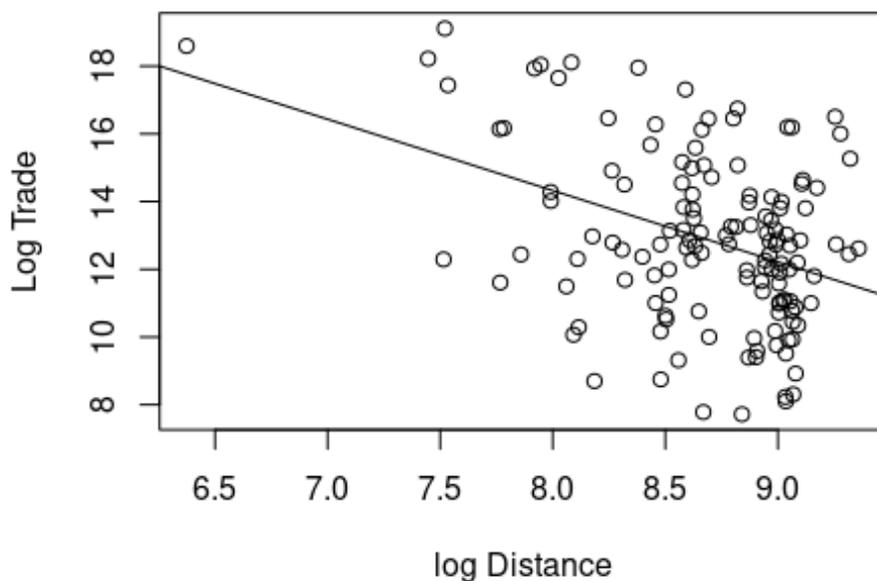


図1 散布図（自分で作成したものと置き換えてください）

表2は、重力方程式の推定結果である。従属変数は、2国間のFDIストックの対数である。説明変数は2国間の距離の対数と～～である。推定手法は、最小二乗法（OLS）である。

表2 重力方程式の推定結果（自分で作成したものと置き換えてください）

	係数	標準誤差	t	P-値
切片	9.821	3.362	2.921	0.004
ln GDP	0.949	0.052	18.243	0.000
ln Distance	-1.092	0.343	-3.180	0.002
EPA	1.141	0.520	2.195	0.029
ASIA	-0.050	0.515	-0.096	0.923
補正 R2	0.707			
観測数	179			

推定結果からは、～は、2国間の FDI ストックの対数と統計的に有意にプラスの関係にあることがわかる。また、～～の関係にあることがわかる。

<自分で Excel により回帰分析（重力方程式の推定）を1つ以上行い、推定結果を表にして、提示し、文章を加筆してください>

4. 終わりに

本研究から、外国直接投資（FDI）のストックについて、～ということがわかった。

<自分の分析からわかったことを要約し、自分の分析の限界や今後の課題について、文章を加筆してください>

参考文献

Anderson, J. E., Larch, M., & Yotov, Y. V. (2019). Trade and investment in the global economy: A multi-country dynamic analysis. *European Economic Review*, 120.

Blonigen, B. A. (2005). A review of the empirical literature on FDI determinants. *Atlantic Economic Journal*, 33, 383-403.

Head, K., Mayer, T., & Ries, J. (2010). The erosion of colonial trade linkages after independence. *Journal of International Economics*, 81(1), 1-14.

Kox, H. L., & Rojas-Romagosa, H. (2020). How trade and investment agreements affect bilateral foreign direct investment: Results from a structural gravity model. *The World Economy*, 43(12).

<自分で Google Scholar で調べた先行研究の文献情報を APA 形式で追加してください。>

×

引用

MLA Head, Keith, Thierry Mayer, and John Ries. "The erosion of colonial trade linkages after independence." *Journal of international Economics* 81.1 (2010): 1-14.

APA Head, K., Mayer, T., & Ries, J. (2010). The erosion of colonial trade linkages after independence. *Journal of international Economics*, 81(1), 1-14.

ISO 690 HEAD, Keith; MAYER, Thierry; RIES, John. The erosion of colonial trade linkages after independence. *Journal of international Economics*, 2010, 81.1: 1-14.

[BibTeX](#) [EndNote](#) [RefMan](#) [RefWorks](#)

レポート提出前に以下のサイトでコピーチェックをかけて判定結果が「良好」であることを確認してください（2回以上チェックをかけると判定が「良好」ではなくなりますので、1回でチェックしてください）：

<https://ccd.cloud/>

上記サイトの判定結果のスクリーンショットをレポート末尾に貼り付けてください。